



# Economic Monitor

## 米国の労働力率上昇の背景

4月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が2ヶ月連続で20万人超の大幅増加を記録した一方で、失業率は9.7%から9.9%へ上昇し、雇用者数と失業率の変化の方向が逆となった。統計上、4月の失業率上昇は、米国民の労働市場への復帰によるものと説明できる。つまり、米国民の労働市場への復帰により、労働力人口（働く意志のある人）が増加したが、労働市場へ復帰した人がすぐに皆、就職できるわけではないため、職を得ることができない失業者も増加し、失業率は上昇したということである。

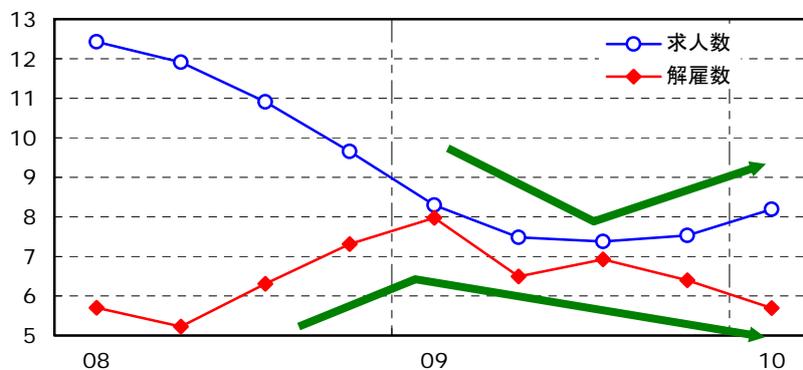
では、なぜ労働市場への復帰が、このタイミングで進んだのか、その理由を考える上で有用な統計であるJOLTS（Job Openings and Labor Turnover Survey）の3月分が5月11日に公表された。JOLTSによると解雇数（Layoffs and Discharge）が昨年10～12月期前期比▲7.6%→今年1～3月期▲10.9%と2四半期連続で大幅に減少する一方、求人数は10～12月期2.2%→1～3月期8.8%と2四半期連続で増加している。こうした就職環境の改善を、米国民が認識し、労働市場へ復帰したのだと推測できるだろう。

なお、5月の非農業部門雇用者数は、4月を上回る大幅増加になる可能性が高い。10年に一度の国勢調査による雇用増がピークとなるためである。前回国勢調査が行われた10年前の2000年5月には、国勢調査要因だけで35万人も雇用者数は増加した。国勢調査要因が前回と同じ35万人程度、国勢調査要因以外の雇用増加が4月と同じ20万人程度と仮定すると、今年5月の雇用増は55万人に達する。

### なぜ失業率は上昇したのか？

$\frac{\text{失業者数3月:1,501万人}}{\text{労働力人口3月:1億5,391万人}} + \frac{\text{4月の増分:25万人}}{\text{4月の増分:81万人}} = \frac{1,526\text{万人}}{1\text{億}5,472\text{万人}}$
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>3月の失業率9.7%</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>4月の失業率9.9%</p> </div> </div>

### 求人数と解雇数の推移(百万人)



(出所)U.S.DOL